

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：アスク藤が丘保育園	種別：認可保育所		
代表者氏名：小嶋 直子	定員（利用人数）：46（45）名		
所在地：〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘2-4-10 サンデュール藤が丘1階			
TEL：045-979-1528	ホームページ： https://www.nihonhoiku.co.jp/blog/fujigaoka/		
【施設・事業所の概要】			
開設年月日 2008年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 日本保育サービス			
職員数	常勤職員：	13名	非常勤職員：7名
専門職員	保育士	14名	栄養士 1名
	看護師	1名	調理員 2名
施設・設備の概要	（居室数）		（設備等）
	乳児室（0～1歳児）	1室	鉄筋コンクリート造5階建て 1階部分 延床面積 169.62㎡ 園庭 47.27㎡
	乳幼児室（2～5歳児）	1室	
	沐浴室	1室	
	調理室	1室	
	職員休憩室（更衣室）	1室	
	トイレ	2室	

③ 理念・基本方針

【保育理念】

『未来^{あす}を生きる力を培う』

自分らしく、生きる道を歩み、どんな時代にも対応できる資質と能力を培います。

【保育方針】

『自ら伸びようとする力を支えます』

『五感を養って感性を豊かにします』

『後伸びする力を育みます』

一人ひとりに心をかけ、愛情を注ぎ、成長に合わせたきめ細やかな保育を行うことで、変化の激しいこれからの社会を生き抜くための、“生涯にわたる生きる力の基礎”を育みます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

アスク藤が丘保育園は、東急田園都市線藤が丘駅から徒歩3分のビルの1階にある、日本保育サービス運営の認可保育園です。0～5歳児の定員46名のところ、45名が在籍しています。ウッドデッキで水遊びをし、バルコニーではプランターで野菜を

栽培しています。周囲には様々な公園が点在し、ほぼ毎日散歩に行っています。

【園の特徴】

0、1歳児と2～5歳児がそれぞれ同じフロアで過ごし、3～5歳児は異年齢クラスとなっており、異年齢児が日常的に触れ合って刺激を受けています。

専門講師による英語、体操、リトミックのプログラムがあり、楽しむ心や学ぶ楽しさを育てています。年齢ごとの食育計画をたて、栽培した野菜やハーブを使ったクッキングをしています。給食の献立に各地の郷土料理を取り入れ、食と地域への関心を深めています。

地域の子育て支援として、育児相談や絵本の貸し出しのほか、今年度から年2回の子育て支援講座、毎月の保育室開放を始めています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年8月1日（契約日） ～ 2023年4月8日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	11回（2017年度）

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点

1. 様々な経験や体験ができる機会

池、せせらぎ、斜面、植物、遊具のある公園が近くに多くあり、天候が悪くなければほぼ毎日散歩に行き、子どもたちは自然や季節を感じています。

職員が植物の絵本を持参して調べたり木の名札を読んだりして、子どもたちは名前を覚え観察しています。探索してカモやハトや虫を見つけたり、木の葉やドングリを集めて制作に使ったりまごとの材料に見立ててお店屋さんごっこをしたりしています。電車を見下ろす陸橋の上から手を振ると、運転手が手を振ってくれます。鬼ごっこ、かくれんぼ、かけっこ、縄跳び等で身体を使って遊ぶとともに、異年齢で遊ぶときには小さい子どもの面倒をみるなど、子ども同士で遊ぶときのルールや思いやりも身に付けていきます。他の保育園の子どもたちや未就園児との触れ合いもあります。

2. 保護者と職員とが子ども全員を見守る家庭的な雰囲気

保護者と職員が子ども全員の育ちを見守るアットホームな関係にあります。

新入園児の情報は更衣室に貼って、全職員が把握できるようにしています。子どもの様子は昼礼で共有しています。送迎時には、園長や他クラスの職員もその子どもの「その日のひとこま」を保護者に話しています。今回の調査の利用者家族アンケートでは、「送迎時のお子さんの説明について」の満足度が90%でした。

きょうだい児のいない子どもも多く、異年齢の子どもたちがきょうだいのように過ごしています。3～5歳児は異年齢クラスで、昼食時のテーブルも異年齢で囲んでいます。他クラスの保護者同士も送迎時には自然に情報を伝え合ったり、運動会や生活発表会ではほかの子どもたちの成長を我が子のように喜んだりする姿があります。

3. 研修や会議で職員の意識統一を図る取組

職員一人ひとりの今までの経験や雇用形態の違いによる保育への思いや保育観の違いをお互いに共有する必要があると、園長は認識しています。おもちゃと子どもの発達との関係について職員間の意識の共有ができるように、園内研修として「年齢によるおもちゃの使い方」を取り上げています。おもちゃ別に使用目的が明確になるよう

に表を作るのが、最終的な目標となっています。

また、子どもの姿の共有に加えて、保育についても職員間で意識を共有して対話を活性化するために、会議を増やしたり園内研修担当職員の配置を変えるなどの取組をしています。

4. 課題改善の実現のために単年度の事業計画の作成を

単年度の事業計画として、目標、現状や課題等を記した「施設目標」を作成していますが、中・長期計画を反映したものにはなっていません。

年間目標だけでなく、中・長期計画を踏まえた保育や人材育成、人事管理、職員体制、設備等、園運営全般が把握できる単年度の事業計画の作成が期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回5年ぶりの受審となりました。その間、職員の入れ替わりやコロナ禍の対応もあり、保育の質の保持・向上、課題の改善について多角的に確認できる良い機会となりました。

各評価項目について職員ひとりひとりが振り返りを行いました。日々慌ただしく過ぎてしまいがちな日常ですが、内容評価の項目の振り返りの中で、普段行っていることの意味の再確認や保育所に求められている内容について改めて再認識することができました。取り組みや実践について言語化・可視化することで、職員ひとりひとりの自信にも繋がったと感じています。共通評価の項目については、前回より内容が細かくなっていたため、より具体的に課題点を浮き上がらせることができました。組織として地域に貢献し、よりよい児童福祉サービスを提供し続けられるよう今後も精進してまいります。

保護者の皆様にはお忙しい中アンケートにご協力いただきありがとうございました。園運営は園と保護者の方が協力しあって成り立つものだと考えています。頂戴したご意見・評価は職員の励みや課題へ繋がります。今後も保護者の皆様と一緒に「こどもたちの笑顔のために…」何ができるかを考え、育ちを見守り、サポートしてまいります。また、評価機関の皆様には長期にわたる丁寧な聞き取りと調査をありがとうございました。この場をお借りしてご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり